

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果概要および改善の方向等について

9月に文部科学省から全国学力学習状況調査の結果概要が発表されました。本校でも6年生が4月にこの調査を受けました。(個別の結果については各家庭に配付済みです。)今年度の本校の結果の概要、課題、今後の改善の方向性についてお知らせします。

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率

・全国平均に比べ上回っている。

□「書くこと」の平均正答率

・全国平均に比べ上回っている。

□「読むこと」の平均正答率

・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

□「言語事項」の平均正答率

・全国平均に比べ上回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率

・全国とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「書くこと」の平均正答率

・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「読むこと」の平均正答率

・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

●物語を読む際、登場人物の相互関係から、人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情まで捉えて読むこと。また、情景描写に着目し、複数の叙述と関係付け、暗示的に表現されている登場人物の心情を捉えて読むこと。

●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

改善の方向

○直接的な叙述や描写だけでなく、暗示的な表現にも注意し、想像を豊かにしながら読む指導に力を入れる。また、同じ作者や同じ題材の作品を比べて読み、友達と感想を交流することで、児童自身が優れた叙述や登場人物の内面にある深い心情に気付くことができるように指導していく。

○話し合い活動の場を多く経験させることに加え、話し合い活動の振り返りをさせる。その際には、観点に沿って振り返り、参加者や司会者の役割を整理したり、解説係を置いてその気づきを生かして振り返り、それぞれの役割のポイントを明らかにしたりしていく。

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題 (A)

- 「数と計算」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。
- 「量と測定」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。
- 「図形」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。
- 「数量関係」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。

主として「活用」に関する問題 (B)

- 「数と計算」の平均正答率
 - ・全国平均とほぼ同程度であるがやや上回っている。
- 「量と測定」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。
- 「図形」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。
- 「数量関係」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。

今回の調査における課題

- 複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現すること。
- グラフの特徴を理解し、複数のグラフから読み取ることができていることを、適切に判断すること。
- 複数の情報を関連付けて論理的に考察し、判断の理由を数学的に表現すること。
- 規則性を解釈し、条件に合う事柄について、適切に判断すること。

改善の方向

- 目的に応じてグラフを作り、複数のグラフを関連付けて考察することができるようにする。そのために、本調査の設問や類題を用いて、人数を表したグラフだけでなく、目的に応じて割合を表したグラフを新たに作り、それぞれのグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察する活動を行う。
- 日常生活の問題の解決のために、複数の情報を関連付けて論理的に考察し、判断の理由を説明できるようにする。また、事象から規則性を見出し、変化や対応の関係を基に合理的、能率的に処理し、条件に合う事柄について適切に判断することができるようにする。そのために、本調査の設問や類題を用いて、複数の情報から、枚数、本数、個数などの数量を解釈し関連付けて論理的に考察する活動を行う。

本校の概要

【A区分】

- 「物質」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。
- 「エネルギー」の平均正答率
 - ・全国平均とほぼ同程度であるがやや上回っている。

【B区分】

- 「生命」の平均正答率
 - ・全国平均に比べ上回っている。
- 「地球」の平均正答率
 - ・全国平均とほぼ同程度であるがやや上回っている。

今回の調査における課題

●より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること。

●乾電池のつなぎ方を変えると、電流の向きが変わることを実際の回路に適用すること。

改善の方向

○観察や実験の結果を基に、「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるようにする。そのために、自分の予想にとらわれずに考えの根拠を明確にししながら、事実とその解釈の両方を整理して説明する学習活動を行う。事実と解釈の両方を表現することで、よりの確な説明になることを捉えられるように指導していく。

○つくったものが目的に合ったものになっているかを振り返り、必要に応じて目的に合うように改善していけるようにする。そのために、修正する活動の前に目的の確認、不具合の原因、どのように修正するかについて交流する場を設け、ものづくりに適用しようとしている知識を自覚できるようにし、活用を促すような学習活動を行う。